

論理的思考力を育てる プログラミングれんしゅうちょう

石戸奈々子(NPO法人CANVAS理事長)監修 発刊のお知らせ

2019年9月12日、(株)学研プラスより石戸奈々子(CANVAS理事長)が監修を務めた学習ドリル『論理的思考力を育てる プログラミングれんしゅうちょう』が発売されました。ぜひ貴社媒体を通じて、本書を広くお知らせいただきたく、ご検討くださいますようお願い申し上げます。

概要



2020年必修化目前!

幼児から楽しく学べる「プログラミング」ドリル

PC・タブレットを使わないプログラミング学習ドリル。
「お団子をつくる順をロボットに教えよう」などといった楽しい問題を解きながら、論理的思考力と創造力を育む。身の周りのコンピュータに親しみながら、順序・分岐等プログラミングの考え方を学ぶ。

【書籍データ】

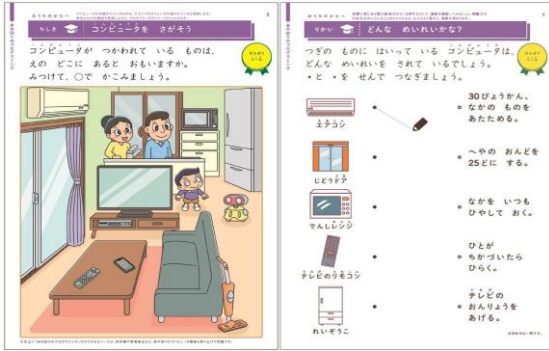
監修: 石戸奈々子
問題構成: 入澤宣幸(入プロダクション)
定価: 本体 750 円+税
発売日: 2019 年 9 月 12 日 (木)
判型: A4 判/64 ページ
電子版: なし
ISBN: 978-4-05-205076-3
発行所: (株)学研プラス

【本書のご購入はコチラ】

- ・Amazon <https://www.amazon.co.jp/dp/4052050762/>
- ・楽天ブックス <https://books.rakuten.co.jp/rb/16008342/>
- ・学研出版サイト <https://hon.gakken.jp/book/1020507600>

【内容】

1) まずは、身の回りのコンピュータに親しむ問題から



スマートフォンやテレビなど、コンピュータが入った機械は、それぞれプログラミングされて動いています。

まずは導入として、「絵探し」などを通して身の回りにあるコンピュータを認識します。問題を解きながら、プログラミングが身近なものであることを理解します。

2) メインは、「順次」「くり返し」「分岐」をテーマにした論理問題



プログラミングの主な考え方として、「順次（順番に処理すること）」「くり返し」「分岐（条件ごとに処理を変えること）」があり、本書はこの3つをテーマとした問題で構成。それぞれ幼児にとって身近な場面で、ロボットに命令するなどの作業を通して理解していきます。後半では、3つの考えが組み合わさった、より複雑な問題に挑戦。

3) 最後は創造力を育む問題



さまざまなロボットたちに命令したあとは、自分だけの特別なロボットを考えます。発想を広げて、便利で楽しい機能を、自由に考えましょう。

4) 巻末には、1人でも2人でも遊べる「ロジカルめいろパズル」つき！

【監修について】



■「プログラミング学習に一番大事なのは創造力」

監修: 石戸奈々子(NPO 法人 CANVAS 理事長)

コンピュータはあらゆるモノ、環境に溶け込み、生活を便利で豊かにしています。これからの時代を生きる子どもたちにとって、コンピュータを動かすプログラミングは基礎教養となるのです。ただし、それ以上に大事なことは、『プログラミング』という道具を使って、新しい物やサービス、社会を生み出す創造力。本書を通じて親子でコンピュータの基本を学び、未来と一緒に考えてみてください。

石戸奈々子(いしど・ななこ)

NPO法人CANVAS理事長/一般社団法人超教育協会理事長

株式会社デジタルえほん代表取締役

慶應義塾大学教授、博士(政策・メディア)

東京大学工学部卒業後、マサチューセッツ工科大学メディアラボ客員研究員を経て、NPO法人CANVAS、株式会社デジタルえほん、一般社団法人超教育協会等を設立、代表に就任。慶應義塾大学教授。総務省情報通信審議会委員など省庁の委員多数。NHK中央放送番組審議会委員、デジタルサイネージコンソーシアム理事等を兼任。政策・メディア博士。

著書に「プログラミング教育ってなに? 親が知りたい45のギモン」「子どもの創造力スイッチ!」他、監修に「どんどんめくってはっけん コンピュータのひみつ」「さわって学べるプログラミング図鑑」など。

これまでに開催したワークショップは 3000回、約50万人の子どもたちが参加。

実行委員長をつとめる子ども創作活動の博覧会「ワークショップコレクション」は、2日間で10万人を動員する。

デジタルえほん作家&一児の母としても奮闘中。

<http://www.canvas.ws/nanako/>

本件に関する一般及び報道機関からのお問い合わせ先

特定非営利活動法人CANVAS



遊びと学びのヒミツ基地

CANVASはこどものための創造・表現の場を提供し、豊かな発想を養う土壌を育てることを目標として設立されたNPOです。これまで50万人のこどもたちにワークショップに参加いただきました。こどもたちに新しい表現を生み出してほしい、新しい世の中を築いてほしい。そんな願いを叶えるため、産官学さまざまなプレイヤーのみなさまと連携しながら「未来をつくる」プロジェクトを生み出しています。

CANVASホームページ <http://www.canvas.ws>

問い合わせメールアドレス information@canvas.ws